

全国保健師長会 栃木県支部だより

発行
全国保健師長会
栃木県支部
令和2年3月吉日
第 38 号



支部長あいさつ

栃木県支部長 高橋 良子 (県西健康福祉センター)

年度末を迎え会員の皆様におかれましては、ご多忙の毎日をお過ごしのことと思います。そして昨年 10 月の令和元年東日本台風の被害に遭われた方々につきましては、一日も早い復旧復興を願っております。

何はともあれ直接支援に駆けつけてくださった皆様、支援保健師を送り出し留守中の業務を担ってくださった皆様、受援・支援の調整にあたられました皆様方、本当にお疲れ様でした。また被災された地域を守る保健師諸姉の活動を見聞きするたびに、統括保健師の底力を知る思いがしました。平時からの地域活動や様々な関係機関との連携などの大切さを痛感し、同時に新たな課題も見え、既に対策を講じ始めておられるところもあると思います。

近年の保健事業を取り巻く状況として、例えば母子保健では妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目ない支援を、より包括的に多くの職種や機関で連携しながら行うことが求められるようになりました。それは母子保健に限らず、高齢・難病・障害・感染症・災害・健康づくりや地域保健事業においても、携わる様々な職種や関係機関の多様化、関連分野の広がりに応じて、相互の事業を理解し合うことが必要となります。

一方で保健師は、保健師免許取得までの教育課程や就職までの職務経験等の多様化もあり、保健師の能力は経験年数に応じて一様ではありません。

加えて保健師は分散配置されていることから、今回の災害対応など横断的な動きを求められる場合、統括保健師の役割が重要であり、かつ周囲からの期待も大きいと考えます。

過日開催いたしました研修会におきまして講師の厚生労働省健康局保健指導室加藤室長からも「10年後、20年後を見据え、労働力や人口構成が変化する中どのようにして看護職員を確保していくのか、また支援が必要な人に効率よく提供できるよう方策を検討していかなければならない。」とありました。

全国保健師長会栃木県支部といたしましても『健康なまちづくり』を目指して、様々な視点から推進していけるよう、これからも取り組んで参りたいと思いますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

《入会の御案内》

全国保健師長会は、昭和54年に地域保健活動を担う保健師が国保から市町村へと一本化されたことを機に、全国の保健師リーダーの連携と資質の向上を目指して結成されました。行政機関で働く保健師活動のあり方を追求しています。新規会員の方のご入会を心からお待ちしております。

令和元年度全国保健師長会研修会及び代議員総会報告

○ 全国保健師長会研修会

日 時：令和元年 11 月 14 日(木)～15 日(金)

会 場：岡山県岡山市メルパルク岡山

出席者：369 名

○ 全国保健師長会代議員総会

日 時：令和元年 11 月 16 日(土)

会 場：岡山市ピュアリティまきび

出席者：代議員出席 161 名・委任状 115 名
計 276 名

今年度の全国保健師長会研修会・総会は、岡山県岡山市で開催され、栃木県支部からは4名（県1名、宇都宮市2名、市町1名）が参加しました。報告や講演の中で印象に残った内容をいくつか報告させていただきます

「保健師基礎教育のカリキュラム改訂の動きから保健師現任教育に期待すること」として、自治医科大学看護学部学部長の春山先生の実践報告がありました。看護基礎教育検討会においてカリキュラムが改正され、看護師が多様な場で役割を発揮する能力（病院だけでなく、療養施設など様々なところで活躍するようになり、本来保健師の分野であった「地域をアセスメントする能力」や「健康増進や予防に関わる能力」）を強化することが検討されたそうです。保健師教育の中では健康危機管理能力を強化し、データ等のエビデンスに基づき、施策化に向けた能力を強化する必要性について検討されているそうです。

保健師現任教育に期待することとして、1. 保健師の基礎教育と保健師現任教育との円滑な接続、2. 地域における看護職間連携を促進する現任教育、3. 看護師や助産師経験をもつ新人保健師の経験の考慮（退職率が高いといわれているそうです）があげられました。

開催地である岡山県備中保健所と三重県津市からは「保健所と市町村管理期保健師が協働で進める保健師人材育成～OJT と off-JT を連動させた保健師人材育成の取り組み～」の報告がありました。保健所と市町、共にそれぞれの背景を活かした研修や大学を巻き込んでの検討等、今後の取り組みのヒントにつながる報告でした。

行政保健師は、地域のニーズを予算化し、制度や新たな仕組みを作ることができます。地域の中で多職種が連携して健康づくりの取り組みを行っていますが、地区を診断し、課題を見つけだして制度化や事業化できる保健師ならではの強みを自覚し、その重要性を共有していけるよう研修等を企画して検討していきたいと思いました。

また、大阪市健康局健康推進部 松本珠実氏の講演「災害時及び災害を想定した平時からの保健活動の推進～経験から学び、さらなる役割発揮へ向けて～」では、大阪北部地震の体験を振り返ってのお話がありました。災害時に起こることを想定して、平時に行う準備の重要性を改めて実感しました。①職員の参集計画の立案、②BCP（業務継続計画の立案）、③災害応急対応業務の明確化、④保健医療活動チームに応援を依頼する業務等を進めておくことが大切であることの報告がありました。

災害の対応は、いつか起こるものではなくてきているため、日頃からの顔のわかる関係作りはもちろんのこと、保健と医療が十分に機能できるよう災害対応業務では、いつから何を開始し、支援者に応援を依頼する業務や情報の共有について等、課題と今後具体的に自分たちが取り組むべきことが確認できた内容でした。

なお次年度の開催地は、大分県となります。



『栃木県における保健師の人材育成の現状・取組について』

栃木県保健福祉部保健福祉課 半田富美子

会員の皆様には、日頃から栃木県の保健衛生活動に、御尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、昨年10月の令和元年東日本台風の対応につきましては、会員の皆様が中心になり、組織横断的に自治体の保健活動を統括・調整され、二次被害を防止すべく御対応いただきました。重ねて御礼申し上げます。

さて、人口減少時代を迎え、保健師の人材確保・人材育成は今後大きな課題となってくると考えられます。県では、平成年26年3月に策定しました「栃木県保健師現任教育指針」を見直し、今年3月に改訂版を発行することといたしました。改訂にあたり、会員の皆様から委員の御協力をいただき、多くの御意見を頂戴いたしました。

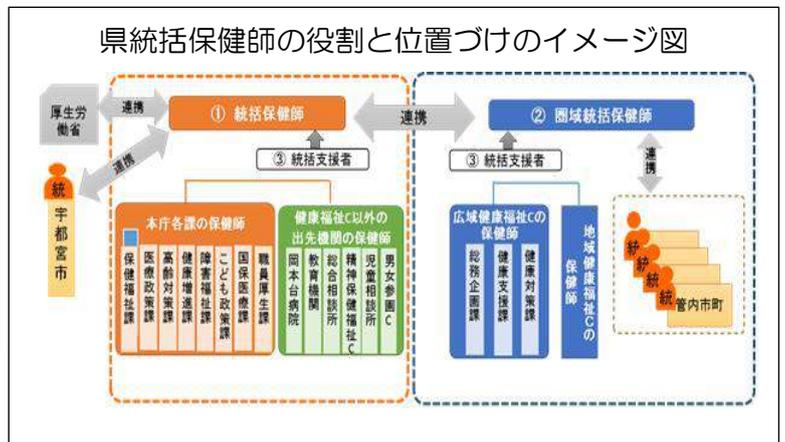
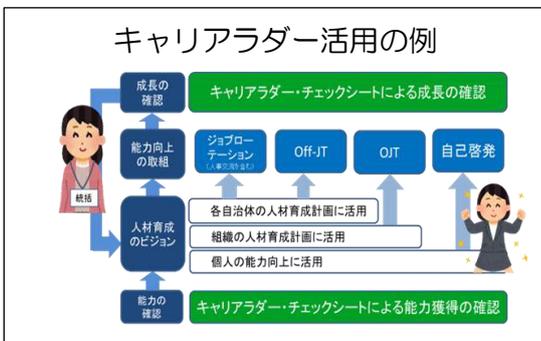
初版策定から、保健師の年齢構成の変化や採用までの看護経験の多様化、職域拡大に伴う分散配置の増加など、ますます時代にあった現任教育のあり方について検討する必要性が高まったところです。

しかしながら、改訂の検討の中で、栃木県の保健師の「めざすべき保健師像」は変わることなく継続すべきと、委員全員の意見が一致いたしました。「みる力」「実践する力」「広げる力」をキーワードに、住民の健康な暮らしを守るために、住民の声に耳を傾けながら専門性を発揮して活動できる保健師をめざすことは継続することといたしました。

保健師活動が多様化する中で、各々がめざすべき保健師像に向かい能力を向上させていくために、専門能力の確認ツールとして、保健師の成長過程を段階的に記載したキャリアラダーを示し、その具体的な活用について記載いたしました。併せて、統括保健師の位置づけや役割についても記載したところです。

改訂版「栃木県保健師現任教育指針」は近日中に皆様の元に届く予定です。多くの方に活用いただき、保健師能力を高めていただくことを期待しています。

令和2年10月1日、2日に保健師ブロック別研修会が本県で開催されます。また、市町村保健師管理者能力育成研修にも取り組む予定にしております。是非、多くの方に参加いただき、人材育成に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。



令和元(2019)年度第2回全国保健師長会栃木県支部研修会報告

- *日 時 : 令和2年1月18日(土) 9:30~11:40
- *会 場 : とちぎ健康の森2階小会議室
- *テーマ : 「国の動向と統括保健師のあり方について」
- *講 師 : 厚生労働省健康局健康課保健指導室
室長 加藤 典子氏
- *参加者 : 41名
- *内 容 :



今回は、私たちもよく知っている厚生労働省の加藤室長をお迎えし、講話をいただきました。自治体保健師の現状では、入庁年齢平均が27歳となっており、統括保健師の位置付けも1番上の保健師ではなく2~3番目の保健師が担っている現状から統括保健師経験者がサポートできる仕組みが必要となっている。地域における保健師の保健活動についても“何をするかではなく、何を目指していくのか”“いかに健康なまちづくりを推進していくか”が大切であることを他の自治体の取り組みを交えながら分かりやすく説明いただきました。リーダー保健師に期待することは、公衆衛生看護の視点を持ち、2040年を見据えた自治体戦略の基本的な方向性と統括保健師の役割と機能を理解して活動してほしいとの内容でした。

最後のグループワークでは、各所属の現状や今後必要な取り組みについて情報交換を行い、統括保健師は衛生部門の配置がベスト、課題の共有の場の設定も統括保健師の役割、事務分掌の有無にかかわらず統括保健師の業務を遂行する必要があることをまとめとした有意義な研修となりました。

★★参加者の声(アンケートから)★★

- 新任期、中堅期の出席が少なかったが、その世代にも是非聞いていただきたい内容でした。
- 日々業務に追われている中で、統括保健師の役割と国の動向について再確認できてよかったです。
- 統括保健師のあり方、効率・効果的な保健活動について深く考えさせられた。
- 国の動向を踏まえたうえで、今後の保健活動について考えていくために有益な情報をたくさんお聞きすることができた。
- 管理職として今すべきことが明確になった。
- いかに健康づくりに取り組んでいくかという観点が重要という点、本当にその通りだと感じました。

—令和2(2020)年度 総会及び研修会の御案内—

日時: 令和2(2020)年5月23日(土)

総会 13:30~14:00 研修会 14:10~16:00

場所: とちぎ健康の森 大会議室

研修会テーマ: 「令和元年東日本台風災害における保健師活動を振り返って
~わが町の地域づくり(管理期にある保健師として)~」